



**玄** 関ドアを開くと迎えてくれるのは、土間に置かれたバーモントキャステイリング社の薪ストーブ。火と共にある暮らしは、ご主人がなえたかった憧れのライフスタイルの一つだ。初夏に家が完成し、秋が深まった頃に、楽しみにしていた初めての火入れを行ったという。「エアコンとは違う暖かさで、体がポカポカになるのいいですね。火を見ていると落ち着くので、よくストーブの前で座りながら眺めています」とご主人は微笑む。点火してから家中が暖まるまで時間が掛かるため、火を入れるのは、早めに仕事が終わった日の夜や、週末などのゆっくり過ごせる時の楽しみにしているという。

薪ストーブの上は吹き抜けになっており、温められた空気は2階の隅々まで行き渡る。「寝る時に2階の寝室がとて暖かくなっている気持ちいいですね。洗濯物もよく乾きます(奥様)。家で過ごす時間が好きな奥様は、休みの日は愛猫とソファでのんびり過ごすのがお気に入りだが、薪ストーブにより居心地はさらにアップしている。「休日には出かけるのが好きなタイプだったんですが、僕も最近は自分もインドア派になってきましたね」とご主人。

木毛セメント板の壁に、オークの床、モルタルのキッチンなど、豊かな素材感もS邸の特徴。落ち着けるように、プライバシーに配慮した窓の配置もよく考えられている。雪の日が続く冬は、一層家の魅力を感じられる季節になりそうだ。

**Data**

延床面積 109.08㎡(33.00坪)  
 1F 57.85㎡(17.50坪)  
 2F 51.23坪(15.50坪)  
 家族構成 / 夫婦  
 竣工 / 2020年6月  
 構造 / 木造軸組工法  
 設計・施工 / 株式会社 山内組 archi labo



1F



2F

1「薪ストーブを使うようになり、ソロキャンプで焚き火をする人の気持ちが分かるようになりました」とご主人。 2木毛セメント板の壁とヘリンボーンの床の組み合わせがシックさを感じさせるLDK。冷蔵庫や調理家電をパントリーに入れることで、生活感を排除したミニマルな空間が完成。 3スポットライトが壁を美しく照らす。吹き抜けに面した空間は、洗濯物がよく乾くそう。 4吹き抜けから穏やかな光が注ぐ土間。「今度ストーブでピザを焼いてみたいですね」(ご主人)。 5バルセロナチェアが置かれたフリースペースはご主人の趣味の空間。照明の光が際立つ夜の雰囲気もいい。 6通りから見るファサードは、シンプルな矩形のすっきりしたデザイン。プライバシーを考え、通り側は窓を少なめにしている。

6

家で過ごす休日は  
薪ストーブの炎と共に



Case 00

燕市 S邸

**POINT** 薪ストーブがある土間

玄関ドアを開けると土間空間が一直線に奥まで伸びており、そこにご主人のロードバイクや薪ストーブ、薪が置かれている。自然光がたっぷり注ぐ土間は開放感にあふれており、火をいじりながらゆっくりと過ごしたくなる空間だ。